

2011年東北地方太平洋沖地震津波 茨城県日立市周辺調査

2011年3月14日実施

(独)産業技術総合研究所

澤井祐紀・宮下由香里・楳原京子

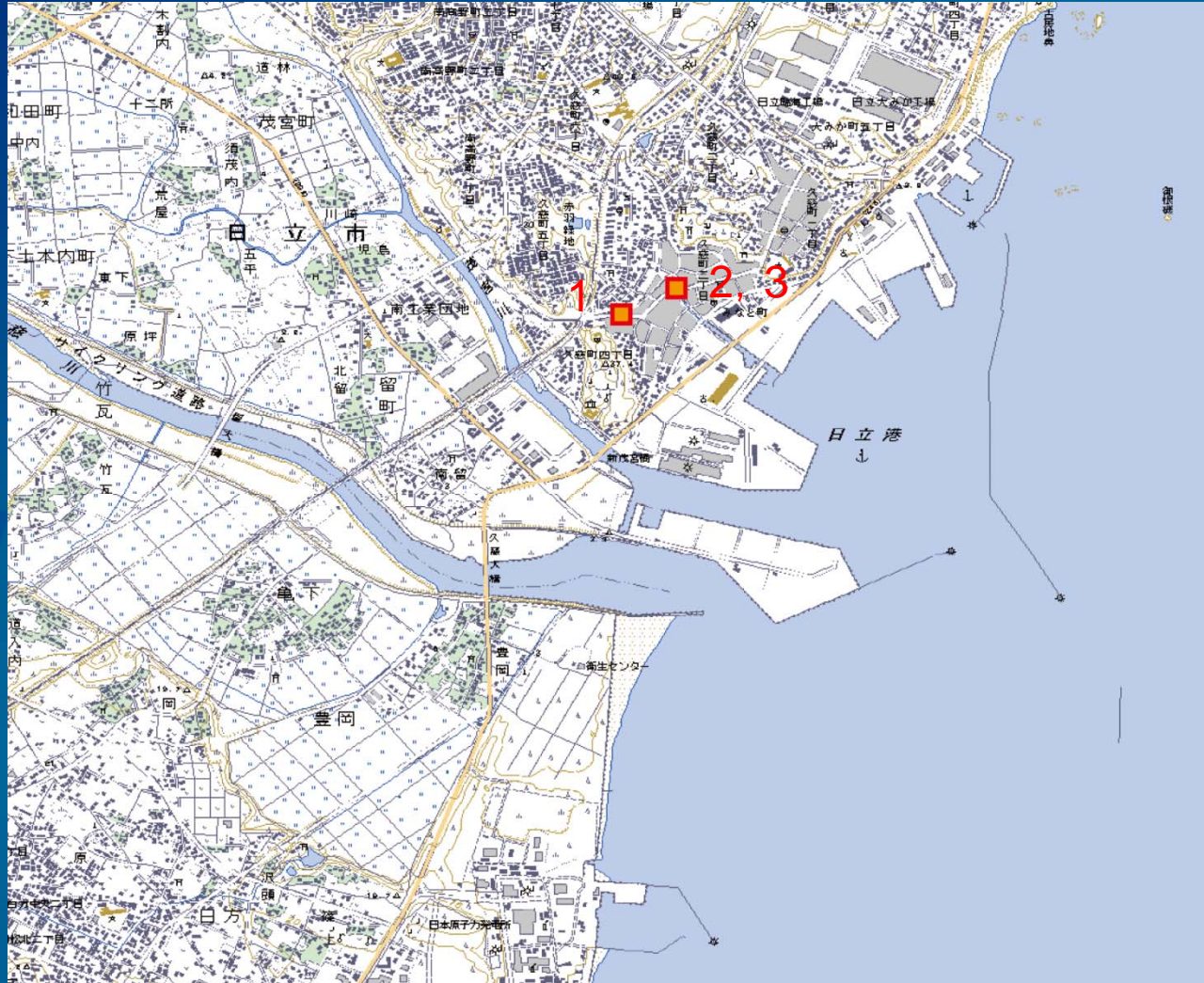
(独)建築研究所

藤井雄士郎

調査地域



日立港



日立港周辺の浸水状況 (1)



砂泥が散った状態

ウォーターマーク: 津波などで浸水したあとに残る、水面の跡

- ウォーターマークを計測
- 下の写真で道路から56 cm + α の高さまで浸水
- 写真とは別の場所で82 cm



日立港周辺の浸水状況 (2)



津波による土砂・漂流物の撤去. 浸水したものの整理. 一部の自動車は流されたまま放置.

日立港周辺の浸水状況 (3)



132 cm

段差があるため、
道路面からの高さはもう少し高い

日立市・高萩市



- 日立市十王町
(日立市川尻[調査地の南]では漁船が流れるなどの被害. 今回は古地震研究との比較のため水田で調査)

- 高萩市花貫川河口

花貫川河口 (1)

タイヤに明瞭な
ウォーターマーク



流れを示すリップルマークにより、津波による砂と判断

花貫川河口 (2)



津波が引くときに草が倒れた跡

この堤防を越えた →

道路との差 2.0 m

ゴミが集まっている線まで津波がきた



十王 (1)



噴砂跡が多数



十王 (2)



水路より浸水した跡(道路より37 cm低いところまで)

十王 (3)



デブリと砂の痕跡をトレース